

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 鉾田市立上島西小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ・Ⅴ
2 実施対象者 (学年・人数)	全校児童46名 (1年6名, 2年11名, 3年7名, 4年9名, 5年6名, 6年7名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (道徳, 体育, 総合的な学習の時間, 学級活動) ② 行事名 (運動会, オリンピック・パラリンピック学習会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピアンとの交流を通して、努力することの大切さや他者への尊敬、フェアプレイなどの態度を育成する。 ○障がいのある人も、ない人も、思いやり支え合い、違いを受け入れてよりよい社会を作るための第一歩を踏み出す児童を育成する。
5 取組内容	1 運動会を通してオリンピック・パラリンピックの意義について考える。 ○ 期日 令和元年9月21日(土) ○ 内容 オリンピック、パラリンピックの意義について、全校朝会で説明した後は、運動会のスローガンやマークも、オリンピックの意義を含んだものになった。 競技についても、オリンピックを意識して、トーチを使った競技や東京五輪音頭が実施された。



2 パラリンピアンによる講演会

○講師：馬島 誠先生

(バンクーバーパラリンピック アイススレッジホッケー銀メダリスト)

○内容

パラリンピアン馬島先生をお招きして、障がいがあっても、できることはたくさんあることや自分の人生を振り返って、「他喜力」(他人を喜ばせる力)をもつことの必要性について学んだ。

障がいがあることをどのように克服するかを理解させるためのゲームも行った。



3 オリンピアンによる講演会

○講師：千田 健太先生

(ロンドンオリンピック フェンシングフルーレ団体銀メダリスト)

○内容

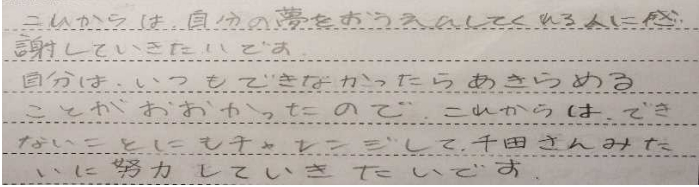
オリンピックの千田先生をお招きして、フェンシング体験を実施した。防具をつけて剣でついたり、剣で風船を割ったりする体験をした。また、講演会では、小さな体でどんな工夫をして世界と戦えるかについて話があり、特に、「その競技を好きになること」「明確な目標をもつこと」「そのために一生懸命努力すること」「まわりの人への感謝」という言葉が児童たちの印象に残っている。



6 主な成果

- パラリンピアン講演会では、あきらめないことの大切さを学んだ。また、「他喜力」(友達や仲間を喜ばせる力)を学び、日常生活で、他人を喜ばせることをした児童を帰りの会でほめ合うことが上手になった。

まこちゃんのお話を聞いて、できないと思っていたことでも、できる気がしてきました。今日は、「顔晴る」と「他喜力」という言葉と、私たちにできないと言っていて、できる!という当たり前のような言葉だけど、私の中には、とても印象をあたえてくれました。今日は、本当にありがとうございました。

	<ul style="list-style-type: none"> •パラリンピック競技を体験したり、障がいを疑似体験してゲームをしたりすることにより、声でのコミュニケーション、音や触れることが、どれだけの手助けになるかを知り、障がいをもつ人にあったら、助けられる人になりたいという感想を書いている児童が多くいた。 •オリンピックの講演会の中で、どんなに大きな相手と戦っても自分の持ち味を生かすことで勝つことができるという話を聞き、努力することの大切さや目標を明確にもつことの大切さをなわとび大会やこれからの生活に生かしたいという感想を書いた児童が多くいた。 
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> •全校朝会を利用して、オリンピックレガシーやオリンピックパラリンピックの歴史等について学ぶ機会を設け、関心意欲を高めた。 •パラリンピアン・オリンピックの紹介をオリンピック・パラリンピックの映像やオリンピック、パラリンピアンが登場したニュース等を用いて説明したことによって、より身近にオリンピック・パラリンピアンが存在を感じられた。 •パラリンピック競技（ゴールボール、ブラインドサッカー）を体育の時間に取り入れたことによって、パラリンピックのすごさや障がいがあっても楽しめるスポーツがあることを理解することができた。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> •パラリンピアン、オリンピックの講演会を全校児童に聞かせる際に、低学年のレベルに合わせて講師の先生が努力してくれたが、理解させるのは難しいと感じた。 •パラリンピック競技を体験させたくても、企画する以前に道具を借りる手段・方法の知識がなかった。そのような情報がほしい。 •今年度は県の事業に参加したので、オリンピック、パラリンピアンを招聘できたが、事業等の支援がなければ講師を呼ぶことは難しいと感じる。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> •「I'm POSSIBLE」を活用し、体育の授業等でシッティングバレーやボッチャなどの新たなスポーツに取り組む。 •あすチャレスクールなどに参加して、オリンピック、パラリンピックを応援していく環境づくり、雰囲気づくりに取り組む。 •学級活動や道徳の時間で、オリンピック、パラリンピアン伝記等を扱い、オリンピック、パラリンピックへの気運を高揚させる。